



木村さんは、命を大事にする大人になり次の世代に大切な命をつないでほしいと話しました

県立釜石病院助産師による出前授業 「伝えたい、生まれてきた喜び」

1月24日 [釜石小学校]

生命の大切さを理解し、自尊心や他者への思いやりの心を育むことを目的に出前授業が開催されました。釜石小5年20人の児童を対象に、助産師の木村裕美さん(写真左)と伊藤利佐さん(同右)が講師を務め、命の誕生の学習や妊産婦体験、赤ちゃんのおむつ交換などを体験しました。妊産婦体験をした児童は、座った状態からの立ち上がりや靴下の脱ぎ履きに悪戦苦闘。母親が経験してきた苦労を知り、出産の大変さや親への感謝の気持ちを改めて感じました。



スキンケアは、よく泡立てた石けんで汚れを落とすことが大事。ビニール袋に石けん、水、空気を入れてよく振り、泡立てる参加者

正しいスキンケアで防ごう 子どもの食物アレルギー

1月25日 [青葉ビル]

小児アレルギーの臨床で活躍している昭和大学医学部の管理栄養士長谷川実穂さんが「食物アレルギーの食事と管理」をテーマに講話。食物アレルギーのある子ども「食べる事は楽しい事」と感じることができるよう、大人は①誤食をしないように管理する ②万一のとき、どう対応するかを知ることが大切だと訴えます。アレルギーで最も多いのは、皮膚の症状。正しいスキンケアと軟こう療法で肌の状態をきれいにし、食べたものと皮膚の関係を整理して医師の適切な診断を受けるようアドバイスしました。



約1カ月の練習を積んで初舞台に上がった瓦田莉桜さん(小佐野小1年)は「ステージで初めてお話した。もう一度やってみたい」と再演への意欲を見せました

おらほ弁で昔話を語っぺし

1月25日 [釜石市民ホールTETTO]

被災地の方言の保存や継承、方言の力を活用した復興への取り組みを支援する文化庁の「被災地における方言の活性化支援事業」として開催。ホールBは約100人の観客を集めほぼ満員となりました。市内で方言による民話の語りを行う「漁火の会」の他、遠野市や青森県の語り部がゲスト出演。観客は多彩な方言の魅力に引き込まれました。漁火の会による民話劇「つま淵の河童」では河童や村人に扮した会員が、観客の笑いを誘いました。



手際よくひじき入りヘルシーつくねや、小松菜ときのこのマスタード炒めを作る参加者ら

食育アドバイザー養成講座

1月28日 [スマッセ(釜石ガス株スタジオ)]

昨年12月3日に開講した食生活改善推進員(食育アドバイザー)養成講座の第4回講座が開かれました。食を通じた地域住民の健康づくり活動を担う食育アドバイザーとなるため、講義や調理実習、実技を全6回の講座で学んでいきます。今回の実習では減塩で食物繊維たっぷりの生活習慣病予防の食事を調理。塩やしょうゆを加えなくても、食材の持つ塩分や調味料を工夫しおいしく食事ができました。



他自治体の具体的な事例を調べ発表。真剣な発表が観客者の心に響きました

鵜住居小学校6年生による防災学習発表会

1月31日 [いのちをつなぐ未来館]

「防災文化を町に広げ、定着させる、その一人になる」ことを目的に、鵜住居小6年の36人が1年間の防災学習で学んだことを発表しました。「災害時の避難場所」や「災害情報の入手方法」「避難訓練への参加」などをテーマに7グループが発表。防災アプリの活用や防災用品の備蓄、楽しいイベントを交えながら避難訓練への参加者を増やす方法などについて提案しました。発表を聞いた観客者は「小学生の頃から防災について学ぶと防災の文化が地域に根付く」「大人がこの発表を生かさなければならぬ」と防災学習の効果を実感し、日頃からの災害に対する備えについて改めて考えさせられる機会になりました。



岸壁では定置網船によりサバなどが初水揚げされました

釜石市魚市場初売り式

1月4日 [釜石市魚市場]

令和になって初めての初売り式が魚河岸の市場で開かれました。市魚市場は昨年7月、水産物の品質と衛生管理に優れた市場として、大日本水産会から「優良衛生品質管理市場」に認定。衛生管理は万全としながらも、サンマや秋サケの不漁で水産業を取り巻く環境は厳しくなっています。このような中、岩手県水産技術センター、岩手大学の連携による水産コンソーシアムの立ち上げなど、新たな展開によって水揚げ減少への歯止め、魚のまち復活に期待を込め、鏡開きで新年を祝いました。

釜石市消防出初式

1月5日 [釜石市民ホールTETTO他]

釜石市民ホールで行われた式典では、永年勤続や消防防災に対する功績を讃え、市長表彰や遠野釜石地区支部表彰が授与されました。大町の青葉通り付近で行われた分列行進には、冷たい風が吹く中、消防団員ら約600人、はしご車やポンプ車など45台が参加。参加した消防団員や分列式を見守った観客は、火災の無い安全安心なまちづくりへの決意を新たにしました。



引き締まった表情で行進する消防団員。防災意識の高揚が図られました



自分が活躍し、釜石の子どもたちに夢や希望を与えたいと話しました

ヴィッセル神戸 菊池流帆選手 市長表敬訪問

1月7日 [市長室]

釜石出身初のJリーガーで2019年はサッカーJ2リーグのレノファ山口で活躍し、今シーズンからJ1のヴィッセル神戸に移籍した菊池流帆選手が市長を表敬訪問しました。菊池選手は釜石中出身で、188cmの長身を生かしたヘディングとスピードが持ち味のディフェンダーです。今後の目標について「まずは神戸で試合に出て日本代表になり、海外のビッグクラブに移籍したい」と目を輝かせました。

令和2年 釜石市成人のつどい

1月12日 [釜石市民ホールTETTO]

式典には、平成11年4月2日から平成12年4月1日生まれの新成人257人が出席。小学5年の時に震災を経験し、復興と共に生き抜いてきた新成人代表の和野内遥さんは「自分たちの故郷が釜石であることを誇りに、多くの方々への感謝、成人としての決意を忘れず、たくましく生きていく」と決意を述べました。また、新成人の有志18人が復興への意気込みと支援への感謝を込めて郷土芸能の虎舞を披露すると、会場全体が成人になる決意を固めた引き締まった空気になりました。



恩師からのビデオメッセージを見て、笑顔がふれる新成人

令和元年度ボランティア功労者 厚生労働大臣表彰状 伝達

1月15日 [釜石地区合同庁舎]

長年にわたり音訳奉仕員として尽力してきた川畑光子さんが厚生労働大臣表彰を受賞し、石川沿岸広域振興局長から表彰状などの伝達を受けました。川畑さんは平成5年に講習を受け、音訳の世界に。昨年、これまで所属してきた「岩手音声訳の会」を退会し、現在は5、6年前から始めたデイジー編集(音訳データに見出しやページ付ける編集)に絞って活動中です。川畑さんは「デイジー編集は自宅のパソコンで作業ができる。これからも続けていきたい」と意欲を語りました。



声の広報の制作(広報かまいしの音訳)にも携わった川畑さん(左から2人目)